

最近、私が小学生のときに利用していた通学路を久しぶりに通った。広い空き地やほぼ人の通らない交差点。昔と変わらない懐かしい風景の中に、一つ前と違う部分があることに気づいた。道路の端の用水路に柵と反射板が取り付けられていたのだ。その用水路は狭い場所に位置しているうえに、周囲に電灯も少なく、辺りが暗くなってくると用水路があることにさえ気づきにくくなってしまう。危ない場所だと以前から思っていたので、真っ白で綺麗な柵の側を真っ赤なピカピカのランドセルが走っていくのを見て、私まで嬉しくなった。

だからこそ、この柵が税金によって作られたのだと聞いたときにはとても驚いた。これまで税金というと、私には国のためにお金を集める、というイメージがあったのだ。国のもののように感じていた税金が、小さな地域の小さな場所にまで使われていると分かり、なんだか嬉しかった。

これをきっかけに税金について調べてみると、道路整備だけでなく、医療費の援助や年金制度など、生活のいろいろな場面で税金が使われていることが分かった。また、税金の種類にもいろいろあり、ゴルフ場の利用者に課されるゴルフ利用税や、鉱泉浴場での入浴に対して課される入湯税といった、あまり耳にしたことのない面白いものもあると学んだ。普段、消費税くらいにしか触れる機会がないが、今後大人になって関わることもありそうな税もあった。

お金の動きは目には見えにくく、私たちは税金による負担の部分ばかりに目を向けてしまいがちだ。しかし、日常生活をよく振り返ってみてほしい。教科書が無償で配布されていたり、救急車を無料で利用できたりと、私たちの生活がいかにか税金に支えられているか分かるはずだ。税金について知っていくうちに、税金を納めるということは一方通行のシステムではなくて、人が人を支え合うシステムなのだという事に気づいた。税金の制度とは、社会というグループに属している人々が、グループを運営するために会費を支払っているようなものなのだ。グループに属する誰か一人でも会費を支払わなければ、グループが運営できなくなってしまう。一人ひとりが会費を支払う代わりに、集まったお金でグループが活動し、それが自分のためにもなっていく。負担も恩恵も、お互い様。自分のためにも他の人のためにも、私はこの社会の一員として、責任をもって税金をきちんと納めていきたい。